

イメージのあなた

報じられた出来事を起点に現場を歩くことをはじめて、10年ほど経ちました。

出来事の当事者と直接的な接触をせず、対話をもたないこの行為は、他者理解とは程遠く、野次馬のようなものです。

私がやろうとしていることは「情報を受信したその瞬間に湧き上がる想いは、いかにしてリアクションからアクションと変容しうるのか」「刹那の間接的な情報から相手を想い眺めることは、立場や距離、時間を超えてどこまで可能なのか」といったもので、その衝動に聞いからリトグラフ版画をつくっています。

リトグラフは絵画の複製にとどまらず、図説や広告、漫画本、報道として活用された印刷技術で、その時代を生きた人々の生活に並走するように存在してきました。

10年の間に少なからず自分自身も変化し続け、都度、つくったものに対して振り返りを行っています。同じ時代を共にする出来事、人に対して、その時の大切にしていた感情を何度も思い出しながら、本展ではほぼ全ての作品を出展したいと思っています。

一人の受信者が辿った形跡を、みなさまと並走できると幸いです。

松元悠

イベント



イベント詳細・アクセスはWEBサイトへ

オープニングセレモニー＆

アーティストトーク

2026年10月10日（土）14:00—14:45

会場 | 黒部市美術館 展示室

*申し込み不要、観覧会鑑賞券が必要

彫らない版画！？

地域のニュースを木版リトグラフで作品にしよう

2026年10月11日（日）10:00—14:30

講師 | 松元悠

場所 | パッシブタウン®PTCC

対象 | 小学生以上（保護者参加可）

定員 | 10名

参加料 | 1,500円（材料費、観覧会鑑賞券付き）

申込 | 黒部市美術館

TEL : 0765-52-5011（受付：休館日を除く9:00—17:00）

共催 | KAYA DO! フリー実行委員会

*制作した作品は展覧会期間中に美術館にて展示します。

見て！感じて！

作品鑑賞バスツアー（米騒動と報道）

本展鑑賞と共に作品のテーマとなった

「米騒動」のゆかりの地をめぐるです。

2026年11月7日（土）9:00—16:30頃

ガイド | 近藤浩二（滑川市立博物館館長）、

津田愛子（黒部市美術館学芸員）

集合場所 | 黒部市生涯学習文化スクエア「ぶらっと」、

黒部市美術館

集合時間 | 9:00（ぶらっと）、9:30（黒美）

解散時間 | 16:00頃（黒美）、16:30頃（ぶらっと）

参加料 | 2,500円（入館料・昼食代・ガイド代含む）

コース | 鑑賞＆ギャラリーツアー→旧十二銀行→

のろしファーム屋敷→滑川の米騒動ゆかりの地・旧街道散策

持ち物 | 飲み物、動きやすい服装、履きなれた靴、雨具

定員 | 18名

申込 | 10月20日（火）締切

黒部市美術館

TEL : 0765-52-5011（受付：休館日を除く9:00—17:00）

共催 | 黒部市生涯学習文化スクエア「ぶらっと」

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035

TEL/FAX 0765 52 5011



《イメージのあなた（野画）》
2026年、リトグラフ、RfK 紙

松元 悠

2026.10.10 Sat. — 12.20 Sun.

黒部市美術館

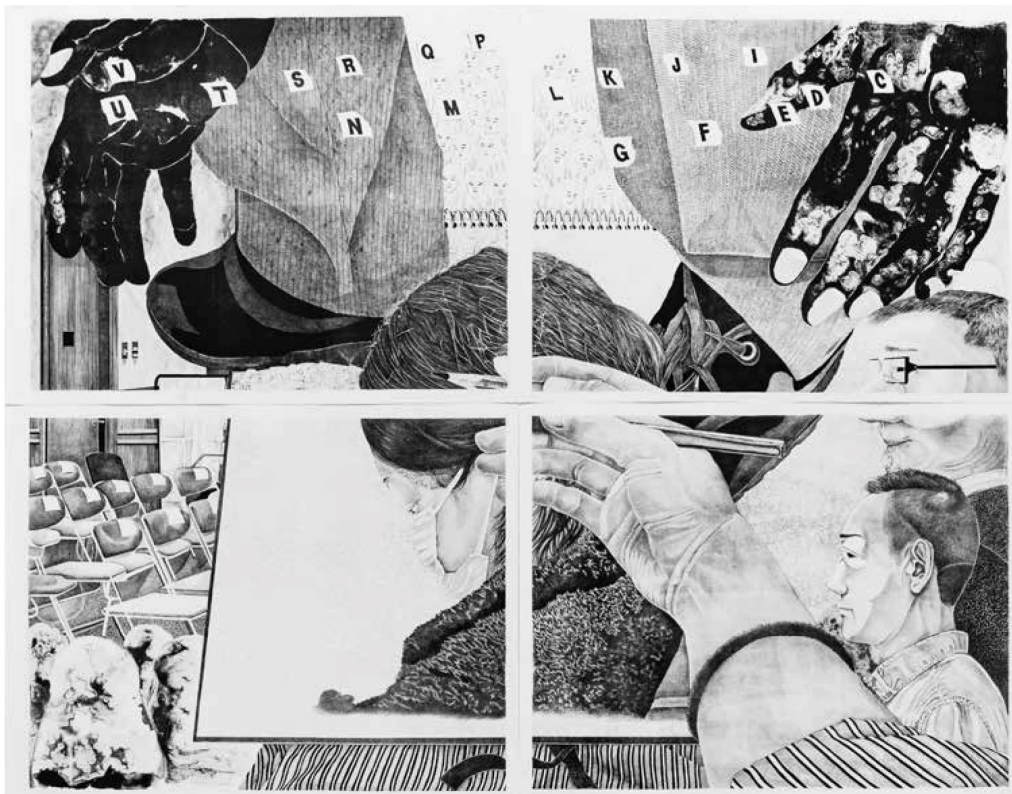
主催 | 黒部市美術館 [公益財団法人黒部市国際文化センター]

助成 | 公益財団法人朝日新聞文化財団

後援 | 北日本新聞社、北日本放送、富山テレビ放送、チューリップテレビ、

みらいTV、新川コミュニティ放送





1



2

法廷と版画



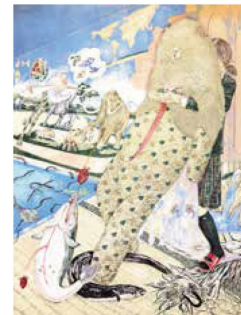
3

ニュースと版画



4

産業と版画



5

物語と版画



6

日常と版画



7

運動と版画



8

日用品と石版画

イメージの あなた

2026.

10.10 Sat. —

12.20 Sun.

黒部市美術館

〒938-0041 黒部市堀切1035

TEL/FAX 0765 52 5011

休館日 | 月曜日（但し10月12日、11月23日は開館）、

10月13日・14日、11月4日・24日・25日

開館時間 | 9:30~16:30（入館は16:00まで）

観覧料 | 一般800円、高校・大学生600円

* 中学生以下無料

* 障害者等手帳をお持ちの方と付添1名無料

松元悠は、たまたま見つけたニュースや、法廷画家としての活動の中で出会った事件について、現地を訪れるなど独自の取材で想像を重ね、当事者を自身の姿に置き換えてリトグラフで作品を制作しています。版画史におけるリトグラフの報道性をベースにしながらも、ニュースと受け手の間を揺らぐようなファンタジックな画面構成も大きな魅力です。

本展では、初期から新作までのほぼ全作品を展示し、作品を通して立ち現れる作家の視点の広がりをつ捉えます。真実をめぐる本来的な理解が難しい他者の出来事とのオルタナティブな関係性を模索してきた松元は、自作が社会に発表されたその後に生まれる「後日談」にも注目し、当事者の聞こえない声や見えないものへの想像力を促します。



松元悠（1993年京都府生まれ）

京都精華大学芸術学部メディア造形学科版画コース、京都市立芸術大学大学院美術研究科絵画専攻版画で学ぶ。近年の個展として2025年「注目作家紹介プログラム チャンネル16 松元悠 夢」（兵庫県立美術館）、企画展に2023年「出来事との距離一描かれたニュース・戦争・日常」（町田市立国際版画美術館）などがある。2025年「Kyoto Art for Tomorrow 2025 一京都府新鋭選抜展」にて「優秀賞」、2026年「第3回絹谷幸二芸術賞」にて「審査員特別賞」受賞。2021年より関西をベースに法廷画家としても活動。

- 《それでも貴方たちはやさしかった》2025年、リトグラフ、BFK紙
- 《蛇口泥棒（長浜市、東淀江市、羽曳川市）》2022年、リトグラフ、BFK紙
- 《水（古高町）》2019年、リトグラフ、かきた紙
- 《里湖源五郎附物語（熊鷹湖）》2021年、リトグラフ、BFK紙
- 《タダイオン》2016年、リトグラフ、コラグラフ、中性紙
- 《1人の自死と9匹のハムスター（ライラック上組）》2017年、リトグラフ、かきた紙
- 《お救い米》2025年、リトグラフ、BFK紙
- 《高野川の陶片と坂本城の食器》2025年、石版画、ウォーターフォード紙